

1 手づくり魚道の完成が出発点！

～SDGs時代の川との付き合い方～

1 社会資本の概要

駒生川は美幌川の支流で、魚の生息数や種数が美幌町内で最も多い川の一つとして知られており、アイヌ語では「チェブンオンネナイ(サケ・いる・大きい・川)」と呼ばれています。

近年は宅地化などが進み、駒生川の直線化に伴って流速を落とす目的で9基の落差工(小型の堰堤)が設置されました。その結果、水生生物が川の

中を移動することが妨げられ、落差工の上流から魚たちが姿を消しました。このことを問題に感じた地域住民が「魚が泳ぐ川を取り戻したい」という思いから活動を開始。駒生川に魚道をつくる会による手づくり魚道等の取り組みにより、今では落差工上流部にサクラマスやイワナを見ることができ、道行く人々を楽しませています。



サクラマスの遡上



木材を使った魚道

2 取組の背景、取組概要と創意・工夫

魚道づくりにあたっては、駒生川に魚道をつくる会と河川管理者(行政)が協議会を立ち上げ、平成23年-24年の間に、魚の遡上の問題となっていた7基の落差工に手づくり魚道を設置しました。魚道づくりには、会員はもちろん、地域住民や、東京農業大学の学生、役場職員等、延べ230名を超える多くの皆さんが参加しました。完成後も、定期的に魚道を補修し、機能を維持しています。

魚道の材料は地元で生産されたカラマツ材や、畑から取り除かれた石を利用することにより、地産地消、費用軽減の工夫をしています。

また、近年は子供達を対象とした自然体験活動、より安価なポータブル魚道の開発、マイクロプラスチック調査及び流域一斉清掃など、将来の世代に環境や資源を残すための活動に取り組んでいます。



ポータブル魚道(サケ用)



自然観察会



マイクロプラスチック調査



駒生川に魚道をつくる会

北海道 美幌町

3 活動の成果や波及効果等

手づくり魚道の作成によって、約40年ぶりにサクラマスやイワナが遡上し、稚魚の誕生を確認することができました。

手づくり魚道の取組は、町外(網走市、釧路市、富山県)からの視察もあり、駒生川の事例を参考にして各地で手づくり魚道が完成しています。

駒生川に魚道をつくる会は、川を原生自然に復元するのではなく、人間と生き物とが折り合いのつく形で共生する自然を目指しています。

産卵遡上したサケ
(北海道の許可を得て調査)

4 前回受賞時からの活動の発展内容

将来の世代に環境や資源を残すべく、子供たちを対象とした川での自然体験活動の充実化、専門家による優れた学習機会の提供をしていきます。また、より簡単で安価なポータブル魚道の開発、川の汚染状況や魚類への影響についてのマイクロプラスチック調査及び流域一斉清掃など、これまで以上にSDGs(持続可能な開発目標)に係る活動の発展に取り組んでいます。

喜びの声



受賞者

駒生川に
魚道をつくる会
会長
橋本 光三

コメント

「魚を遡上させたい!」この思いとともに、多くの方と協力し、活動してきました。結果、今ではたくさんの魚が暮らせるふるさとの川になりました。これもひとえに、活動を支えていただいた皆様のお蔭です。またこの度は、栄誉ある手づくり郷土賞(大賞部門)をいただくことができました。これを励みに、より一層、地域のため、魚たちのため尽力していきます。

活動の内容

- 手づくり魚道の作成・維持管理 ●生き物調査
- 普及啓蒙活動 ●子供を対象とした自然体験活動
- 安価ポータブル魚道の開発
- マイクロプラスチック調査 ●清掃活動

活動の経歴

- 平成21年 駒生川に魚道をつくる会の発足
- 平成23年 2基の落差工に手づくり魚道を設置
- 平成24年 5基の落差工に手づくり魚道を設置
- 平成24年 約40年ぶりにサクラマスの遡上確認
- 平成27年 手づくり郷土賞(一般部門)受賞
- 平成28年 自然観察会開始(地元小学校)
- 令和2年 マイクロプラスチック調査開始

所在地

北海道網走郡美幌町

活動主体及び連絡先

駒生川に魚道をつくる会
(TEL:0152-72-2160 美幌博物館 担当 町田 善康)

対象となる社会資本

一級河川網走川水系支流駒生川
※管理者: 駒生橋より下流が北海道、
駒生橋より上流が美幌町



活動範囲